



奈良県版

No. 374

2024年3月15日

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
奈良県本部  
〒631-0033

奈良市あやめ池南1-9-27  
加藤宜之氣付

☎ 0742-43-0762  
振替 0990-2-209460  
治安維持法國賠同盟  
奈良県本部

## われわれの運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために  
一、治安維持法体制の復活に反対する  
二、国は、治安維持法が人道に反する悪法であつたことを認めること

### 三、国は、治安維持法犠牲者に賠償を行うこと

2024年2月15日、国賠同盟中央本部にて常任理事会が開催され、5月の国会請願と6月の第41回全国大会への2万人の同盟建設、支部建設、国賠署名推進の課題に向けて国賠同盟として全国的な意思統一がはかられました。

吉田万三会長からは「世界と日本が大きな時代の転換期を迎えるなか、同盟も否応なく転換期を迎え、次の世代にどう同盟運動を引き継いでいくか、真剣に考える時がきており、国賠同盟の存在そのものについても再定義する時が来ており、次の42回全国大会に向けて再定義と併せて治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟という団体名称の検討も俎上にのぼる」という問題提起がありました。

にむけて、各県の目標達成への努力が求められている」と、そして会員拡大では2月1日現勢は大会現勢純増360人で、熊本県、新潟県、石川県、埼玉県の4県が会員拡大自主目標を達成した、「この4県の拡大の教訓を学び、大会までに日時を決めた会員拡大運動の取り組みが必要である」とが報告されました。

全国大会成功めざす「会員拡大の特別期間」「4月1日～6月30日」が設けられ、会員拡大を期間中に5人、10人と拡大登録に多くの人が積極的に挑戦してほしいとの要望と新たな支部建設の推進、地方議会への意見書採択、次世代対策としての青年部の結成をめざし、「伊藤千代子」の第3次上映会推進の活動方針が提起されました。

討論では、千葉県が会員拡大で3ヶ月連続2桁の85名拡大で純増12人、会員拡大目標600名中565名達成し、6月の次期総会までの自主目標650名拡大が視野に入るとこれまで前進してきたことをはじめ、この日は17名の発言があり、同盟活動の教訓となる経験に学び、奈良県も全国大会にむけて奮起していくましょう。

続いて田中幹夫事務局長から昨年11月の常任理事会以降の同盟運動の到達点の報告と第41回全国大会に向けての活動方針が提案されました。国会請願署名活動では2月1日現在、国賠署名約5万筆で自主目標の15%の達成段階である」と、国会請願日

# 戦後日本社会を切り拓いた先人たちの苦闘蘇る！

—『占領下の左翼弾圧と抵抗運動—奈良県・甲谷松太の獄中記』に学ぶ—

(その3)

2023年11月15日

治安維持法犠牲者國家賠償要求同盟

奈良県本部顧問 田辺 実

述する」として、「占領下の左翼弾圧

と抵抗運動をめぐる世界史」と、「世

界史のなかの戦後日本史の新展開」、

「朝鮮戦争開戦と共産党大弾圧の進

行」などの項を起」して、占領下の左翼

弾圧の国際的背景の解説を行っています。

その概要は、「国連軍、事実上アメ

リカの単独占領」が1945年9月に

はじまつた。「占領政策の目的は、「田

じあたりず全国で少なからぬ人々が獄

中に」とうわれた。」のことを正確に理

解するためには、「アメリカの対日占領

政策の転換と左翼弾圧の因果関係を

見る必要ある。」と指摘します。その

本の民主化と非軍事化にあったが、

朝鮮軍は北緯38度線を突破して、大

上で、「世界史のなかのアジアと日本  
およびアメリカの世界戦略の一部と

しての対日占領政策の転換経緯を略

対日占領政策の転換の背景」、「アジ  
ア諸国民の民族独立運動の高揚と中  
國革命の進行」があった」とを指摘し  
ます。

具体的には、「1948年4月22

日、中国人民解放軍は、一時期奪われ

た延安を」奪還。戦局は中国共産党優

位に転換した状況下、アメリカは日本

に対す占領政策を「改革から復興へ」

を旗印とする対日占領政策を転換。そ

の内容は、「独資本の復活と共産党

勢力の排除を内容としていた」と指

摘。ついで、1950年6月25日、北

韓民国に進攻した状況のもとで、同年7月8日、「マッカーサーは日本政府に国家警察予備隊（7万5000人）の創設を指令、海上保安庁員の800人増員も命じた。『非軍事化』から再軍備へ。対日占領政策の完全転換である。」と述べ、「アメリカは日本国内の朝鮮戦争反対の国民世論を徹底的に抑え込もうとした。」と日本共産党にたいする弾圧の背景を解明しています。

#### IV 戦前の闘いを戦後に継承し 現代につなぐ

甲谷松太氏、羽根田一郎氏、福本正夫氏らは、『奈良県の治安維持法犠牲者名簿』（治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟奈良県本部 2016年）にも記録されている戦前からの平和の

国民主権求めて闘つた先駆者です。これらの人々は、戦後も平和と民主主義の闘いにたつていていたことを示すものです。

国賠同盟奈良県本部によつて、2021年には、『奈良刑務所物語 治安維持法で囚われた人々』（以下『奈良刑務所物語』）を編集・刊行されています。『田谷松太の獄中記』が刊行されたことを契機に、これらの人々の事績を調査・研究・顕彰活動をすすめ、将来、『奈良刑務所物語』が抜本的に補充されることが期待されます。

先輩諸氏が、どのように闘い歴史を切り開き、戦後日本社会を築いてきたのか、その教訓に学ぶことは、日本社会の進歩的切り開く力になるに違ありません。（おわり）

## 待望の国賠事務所を開設します

県本部が長い間切望していた事務所が持てることなりました。4月より、下記の通り契約のはこびとなりました。

少し手狭ですがこれから国賠運動の発展に大いに役立つ事でしょう。尚、事務所維持のため財政面でのご協力もお願い致します。

同盟員みんなの事務所です。活動の拠点としてフル活用していきましょう。

事務所所在地 奈良市登大路町5-5 奈良教育会館1F



## ミモザ 再スタートに全力！

…どなたでもご参加を…

なら国賠ミモザ会長 小林照代

なら国賠ミモザ(旧女性部)がスタートします。

20以上にわたり、会議を定期的に開き、山本宣治をはじめ治安維持法犠牲者の墓参など精力的な活動を進めてきた「国賠同盟奈良県本部女性部」は、しばらくお休みをしていました。

何とか再開させようと今年1月新年会で懇親を深め、その体制や名称について意見を交換しました。

その際、名称について、「なら国賠ミモザ」がいいなと話し合われましたが、「女性」という名称がないと分かりにくいとの声もあり、2月の理事会で意見を聞き再検討した結果、「なら国賠ミモザ」に決まりました。

以下のご案内のように、「なら国賀ミモザ」がスタートします。

みなさん！お元気なお顔をみせてください。お待ちしています。

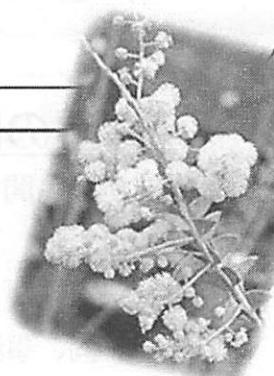
日時：2024年5月11日（土曜日）

14時から16時まで

場所：奈良県教育会館ホール

記念講演：岩下美佐子氏（国賠同盟中央本部副会長・国際部長）

テーマ：治安維持法犠牲者から受け継ぐ私たちの「#Me Too」



## 第一回「長谷川テル訪問記念の碑」碑前祭のご案内

昨年みなさんの厚いご協力で「長谷川テル訪問の碑」の除幕式を行うことができました。さらに顕彰事業を発展させるため碑前祭を行います。  
ぜひみなさんのご参加を呼びかけます。

### 碑前祭の案内

4月20日(土)午後1時~5時

集合場所 植村牧場研修室(般若寺の隣接地)

### 第一部 碑前祭(1時~2時)

宮城恭子会長あいさつ

「ヴェルダマーヨ 長谷川テルの歌」蟻の会合唱団

「碑」制作者 坂口紀代美氏 他の方々の祝辞

般若寺住職のあいさつ

「やまぶきの花」の献花

### 第二部 全国交流集会(3時~5時)

記念講演 山本恒人氏 長谷川テル研究会事務局

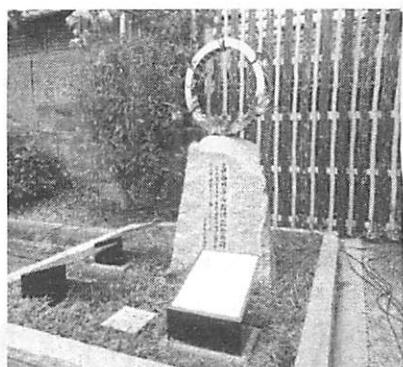
奈良長谷川テル顕彰の会の報告と提案 田辺 実 事務局長

参加者の発言

当日は、ほとんどの行事は

屋内の植村牧場研修室で行います。

JR奈良・近鉄奈良駅からバス奈良坂、  
青山住宅行 「般若寺」下車徒歩5分  
駐車場あり



## 山本宣治没後95年

### DVD「武器なき闘い」鑑賞会

5月11日（土）13：30～16：00

市民交流館（JR郡山下車すぐ）  
(3階会議室)



1960年、監督 山本薩夫 140分

#### ●あらすじ

京都府宇治市の料亭花やしきの経営者夫婦のもとに生まれた山本宣治は、同志社大学の講師を務め、性教育の啓発や産児制限運動に関わっていた。やがて労働農民党の京都府連合会委員長となり、第1回普通選挙で当選して代議士となる。治安維持法改正に反対し、国会での質疑を準備している矢先、山本が泊まる東京の旅館に見知らぬ男が訪ねてくる。

山本宣治、愛称は「山宣」、「今、山宣が健在なら私たちに何と呼びかけるでしょう。山本宣治の墓前で、戦争への道を許さず、平和と自由、暮らしを守る政治の実現を誓いあいましょう。」  
(2024年3月5日の墓前祭に向け呼びかけられた宇治山宣会ニュースより)

〈主催〉 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟大和郡山支部

〈呼びかけ人〉 吉兼重雄（国民救援会奈良県本部常任委員） 藤垣全弘（年金者組合大和郡山支部長）

## 季節の言の葉

逝きて還らぬ教え子よ  
私の手は血まみれだ！

君を縊<いのな>の綱の

端を私も持つていた

しかも人の子の師の名において

嗚呼！

戦後、高知の教師、竹下源治  
が残した勵<あお>ぐの詩

卒業式の季節です

未来を見つめ晴れやかに

巣立つてほしいと、

教師は見守ります。

一度とこのような詩が  
生まれないことを願つて

## 川柳

犯たのなら出処進退を忘れなく  
前原は言うだけ番長言い当てる  
糸尊の「おまえも死ぬぞー」は

身に凍<こご>める

奈良の愚僧

居直つてとぼけて責任なすりつけ  
機密費はポツケないないできる金  
外国の攻撃誘う基地建設

郡山支部 杉本英雄

## 編 集 後 記

1928年3月15日、日本中に治安維持法による大弾圧の嵐が吹き荒れました。決して忘れられない日です。

約1600人にのぼる検挙者の大部分が正式な拘引状のないものであり、取り調べに当たり手ひどい拷問があり、捜査、取り調べは乱暴をきわめ、自白の強要が横行しました。当局の言う合法性など形式的にすぎません。

この3月15日をもって、これまで「伝家の宝刀」的な存在であった治安維持法は本格的な発動へと、更に強固な厳罰化など治安維持法の「改正」へとつながっていました。

命を、人間の尊厳を奪われた犠牲者のみなさんの無念の思いは計り知れません。戦争へひた走る1930年代、強権の非道、理不尽さを、それに抗して闘った人々がいたことを私たちは受け継ぎ、伝えていかなくてはならないと思います。

今年3月15日、15時30分より、近鉄奈良駅小西通りで、宣伝署名活動を行います。ぜひご参加下さい。

E・I

### 署名数・会員数の到達

(2月29日現在)

団体署名 32 (増4)

個人署名 1005 (増320)

会員数 380 (増1減1)